

大波小波

森の大切さ学ぶ

森の大切さや木材の有効利用について考えてもらおうという林業労働体験学習が19日、鹿児島市郡山町の県有林であり、三重岳緑の少年団の子どもたちや保護者ら計約50人が参加した。写真。森林整備や環境教育に取り組む特定非営利活動法人



（NPO法人）「四季の会」が主催した。

かまやなたを手にした子どもたちは、会員から樹種の説明を聞いた。つる切りや下刈りに挑戦したりした。杉に絡んだつるを「できるだけ下から切つて」と指導を受け、懸命に取り除いた。作業後、森の役割や間伐材の使い道も教わった。団員で南方小学校3年の中園夏々海さん（9）は「かまで草を切るのは初めてで、ちよつと大変だった。ハチやバツタを見られるから、山に入るのは好き」と話した。